

謝辞

本研究を書くにあたって、多くの先生方の厳しくも暖かいご指導をいただきました。そして学友の皆さんのご助言と励ましをいただきました。心から深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

筆者の出発点であり、帰着点であるとも言える〈談話分析〉との出会いは、東京外国語大学大学院教授、宇佐美まゆみ先生との出会いから始まりました。談話分析の基礎となる知識や方法など、さらに前へ進んでいけるよう、たくさんの方を教えてくださいました。先生との出会いは、本研究の原点であり、生まれ故郷です。先生からいただいたご指導が常に私の根底に流れ、先生の教えを追いながら、今日に至りました。

ソシールをはじめ、〈言語学〉のロマンスを私の心の中に吹き入れてくださった、東京外国語大学教授、富盛伸夫先生にも深く感謝の意を表わしたいと存じます。博士後期課程の先生の授業では、本当にたくさんの方を学ばせていただきました。ジュネーブ大学の図書館での経験談など、微笑みながらゆっくりと滑らかな口調で淡々と語っていらっしゃった先生の音声や表情、そしてソシールの言語学が今も耳に、心に焼き付いております。先生からお教えいただいたソシールの言語学は本研究の問いとなり、答えとなり、言語研究における談話分析の必然性を自覚させてくれるものでありました。

他大学から本研究の審査を引き受けてくださった、早稲田大学大学院教授、川口義一先生にも深く感謝申し上げます。博士前期課程のときから学会などで先生の講義に触れ、日本語教育や敬語使用に関する知識を学び、刺激や勇気をいただいております。2002年に書いた拙稿がきっかけとなり、先生と直接お話できる機会をいただきました。先生の直接の弟子でもないにもかかわらず、愉快にすがすがしく、暖かくご指導していただきました。そのときの教えは今も鮮明に覚えております。先生のお言葉をいただき、自分の研究への自信や勇気を持って前へ精進することもできました。

他大学から本研究の審査を引き受けてくださった、東京大学大学院教授、生越直樹先生に深く感謝申し上げます。日本語と韓国語の対照言語学について、先生の学会での講義や書籍、論文などに触れ、多くのことを学ばせていただきました。そして国家試験でのお仕事もご一緒させていただき、対照言語学のみならず、韓国語教育について暖かく

ご指導をいただきました。何よりも大学院に入る前、先生の敬語に関する対照研究の論文を読み、先生を訪ねて行ったことを未だに覚えております。本研究の日本語と韓国語の対照研究は、先生のお教えが出発点となっているわけでございます。これからもそうした先生の教えを本研究の根幹に据え、より深みのある対照研究を行ってまいりたいと存じます。

本研究の至らないところを綿密に見ていただき、ときには厳しく、ときには暖かくご指導いただきました東京外国語大学大学院助教授、伊藤英人先生に深く感謝を申し上げます。日本語と韓国語の対照研究を行うにあたって、韓国語のみならず、日本語に至るまで、文法的にも、また広く一般言語学的にも、頂点を極めたともいふべきご指導をいただきました。研究の中で一人では解決できない疑問を持って先生に伺うと、常に言語事実に根拠を置き、さらに深い言語学の世界へ連れて行っていただきました。そこに繰り広げられる先生の精緻で豊潤な言語事実には、ただただ驚くばかりでございました。先生のそうした情熱や教えは本研究の精神と心の大きな柱となっております。

東京外国語大学大学院対照言文情報講座の南潤珍先生にはその韓国の国語学的教養から貴重なご指摘をたくさんいただきました。同大学外国語学部朝鮮語専攻の五十嵐孔一先生、趙義成先生、客員助教授でおられた이은경先生といった先生方も、ゼミを通じて、そしてゼミの外でも、たくさんのご教示を頂戴しましたし、また、ほんとうに心から励ましてくださいました。大学院で教えを頂戴した井上史雄先生、早津恵美子先生の学恩もまた、忘れることができません。ありがとう存じました。井上史雄先生には社会言語学という視野から言語を見ることの楽しさを、また早津恵美子先生からは日本語の文法論の深さを教えていただきました。本研究の大きな支えとなっています。

本研究の談話データの作成に貴い力を尽くしていただいた方々にも熱くお礼申し上げます。貴重な時間を割いて会話に参加していただきました 160 名もの方々に心から感謝申し上げます。また、被験者の方々との出会いのために大変な苦勞を共にしてくださった、中島仁先生、金恩愛さん、손정혜さん、송명근さん、엄미영さん、조은경さん、に深く感謝したいと思います。また、韓国語のデータの作成を助けていただいた, 박혜영さん, 이경아さん, 이진승さん, 日本語のデータの作成を助けていただいた山崎玲美奈さん、小林由枝さんにも深く感謝申し上げます。〈話されたことば〉の文字化という過酷な作業を、心を尽くしてやっていただきました。本研究はこうした方々の貴重なご協力なくしては得られることのできないものでした。とりわけ、須賀井義教さんのすばら

しい技術やご助言をいただき、この膨大な談話データを完成することができました。心から深く感謝申し上げます。そして常に暖かく見守ってくださった樋口信裕さんに感謝申し上げます。

さいごに、本研究のすべてを支えていただきました、指導教官、東京外国語大学大学院教授の野間秀樹先生に心より感謝申し上げます。

ことばでは言い尽くせない、師としての無限の愛情と、燃えるほどに熱いご指導をいただきました。研究や学問の深さ、人間として備えるべき教養、心構え、今までそしてこれから進むべき道を、先生は身を粉にして、私の前に差し出してくださいました。ほんの小さなことまで心を砕いてくださり、弟子たちのために誠心誠意、存在をかけてぶつかる先生のお姿は、ただただ聖なる師といってもいいほどの姿そのものでございます。

先生の下で私の初めての論文が世に出たとき、抜き刷りを何度も何度も繰り返しお読みくださって、暖かく微笑んでおられる先生のお姿は、今も忘れられません。

本研究に至っては、データ収集から文字化、分析、結果の記述などすべての過程に及ぶ、先生の心血を注いだご指導をいただきました。私が悩み続けた問いを、明快に、そして真の深さをもって解いてくださり、研究者にとっての最大の宝ともいふべき、〈知〉を惜しげもなく投げかけてくださる、そうした先生のご指導、先生の存在そのものなくしては、本研究はなしえなかったでしょう。先生の研究者としての、そして師としての姿は、これから私の進むべき道の鑑といたしたく存じます。

ここにはお名前を上げさせていた方々、そして書ききれなかった方々にも、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

父をはじめ、心から応援してくれたソウルの兄と姉にも、そして私の博士論文を心待ちしていた、今は亡き母に、身いっぱい感謝と愛情を込めて、この論文をささげたいと思います。